

身近なニーズに挑むビジネス



広島工業大学名誉教授 中山勝矢

5月3日は憲法記念日。第9条もさることながら、第21条の「婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、…」の方が遥かに嬉しかった覚えがあります。

そのころ合コンはもちろん、合同ハイキングが流行っていました。いまと違って自家用車もマイクロバスも身近にありませんから、駅で待ち合わせては繰り出したものです。

万葉集収録の約4500首の中には、古い時代に男女が野に集い、歌を作り、唄って踊って交歓をした歌垣の歌も残るといいます。時代が変わっても、やはり春はいいですね。

●地域に密着したサービス

久しぶりのクラス会にしても、同好の士が集う会合や身内の法事でも、場所が遠くて不案内だと「行き方が分らないので案内してよ」というクレームがつきがちです。

そうだからといって何台かの自家用車を用意して、分乘して行くことにしたら、これはこれで大変です。今度は運転をする役の人は飲めず、楽しめず、盛り上がりません。

都会ではまだしも、足の便が悪い地域ではいつも幹事が悩むこととなります。バスをチャーターすれば高いし、レンタカーでは運転する人が割を食います。(写真1)

ここにビジネスチャンスがあるわけです。運転手付きの中・小型バスであれば、願ったりかなったりだといえます。

昨年、平成27(2015)年度の第23回中国地域ニュービジネス大賞に対する応募企業の中に、まさにぴったり、このニーズに応える形のビジネスに挑んでいる企業がありました。

鳥取県倉吉市の流通株式会社がそれです。どうしても聞きたいことがあり、お訪ねして社長の江原剛(たけし)さんに会いました。「なぜ社名が<流通>なんですか。」(写真2)

社長さんの説明では、先代が昭和52(1977)年に創業した際の社名は山陰流通センター(株)で、鳥取、米子、松江にも店を置き、主要な業務は「ハトのマークの引越専門」でした。



(写真1) 運転手付きの「ちよいバス」、しゃれた外観に注目。

[流通(株)提供]



(写真2) ポーズをする流通(株)の江原 剛社長
[流通(株)提供]

その後、全国版のハトのマークから脱退し、地域密着サービス事業に事業方針を切り替え、中小型貸切バスで「ちよいバス」を始めたのです。

● 齢を取っても働ける職場

従来貸切バス業界では、半日や一日単位料金が一般的でした。システムを変えて10km単位、10分単位で運行距離を区切り、透明で安価な料金で利用できるようにしたのです。

つまり、10kmほど先までという客の要望にも応えられるように、タクシー感覚の「ちよいバス」を作ったわけです。これが意外に受けているというのですから、目から鱗です。

お会いした江原社長は2代目さんで、平成19（2007）年に就任。いまでは運送事業の他にイベントの企画、式典の会場設営、バスツアーなど、広く手掛けています。（写真3）

初代社長が貸切バス・旅行事業を始めた理由の一つに、従業員が高齢化しても体力的に続けて働ける職場を整えたいという気持ちがあったという話には、心が打たれました。

会社としては、困ったときに頼りになることを目指し、不用品回収やペット葬祭からハチの巣除去に至るまで「地域に欠かせない会社」であり続けたいというのです。（写真4）

「ハトのマーク」からの脱退以来、スピーディーに自社ブランドの構築に力を入れてきました。なかでもユニフォームの制定は、非常に効果があったと聞きました。

従業員は100名弱で、決して大きいとは言えない会社なのです。でも着想が今日的で、地域からの支援が厚くて毎年の総売り上げは上昇中とあれば、声援を送りたくります。

春から夏は、単なる観光に限らないで、皆が外に出て、キャンプやバーベキューなど、もっと野外の集まりを楽しまないといけません。ちよいバスは、必ず役に立ちます。

そのようなわけで、平成27年度の第23回中国地域ニュービジネス大賞では奨励賞が贈られました。もうひと踏ん張りして、大賞に輝くことを願ってやみません。



（写真3）ちよいバスによる少人数のグループツアー。案内のガイドさんがついている。

[流通(株) 提供]



（写真4）暮らしサポート事業として行っているペットのお葬式の例。上から時計回りに倉吉霊園、供養塔、合同慰霊祭、移動火葬車がある。 [流通(株) 提供]

流通(株)ウェブサイト <http://ryu-tsu.jp/>